

## 運用実績

## 運用実績の推移

(設定日:2024年4月30日)



※基準価額は、信託報酬控除後の価額です。参考指数を含め、設定前営業日を10,000円として指数化しています。なお、信託報酬率は「ファンドの費用」をご覧ください。  
 ※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。  
 ※参考指数は、MSCI ワールド・中小型株インデックス(配当込み、円換算ベース)です。指数についての詳細は後掲の「指数の著作権などについて」をご参照ください。

## 分配金の実績(税引前)(直近3年分)

期	決算日	分配金(円)
第1期	2025/05/12	0
-	-	-
-	-	-
設定来累計分配金		0

※分配金は、1万口当たりの金額です。  
 ※分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

## 基準価額・純資産総額

	当月末	前月末
基準価額(円)	10,361	9,916
純資産総額(百万円)	16,082	15,962

※基準価額は、1万口当たり。

	基準価額(円)	基準日
設定来高値	10,406	2024/05/21
設定来安値	7,780	2025/04/09

※同一の基準価額が複数ある場合、直近の日付を表示しています。

## 騰落率(税引前分配金再投資)(%)

	ファンド	参考指数
1ヵ月	4.5	4.5
3ヵ月	5.9	9.6
6ヵ月	6.0	18.9
1年	14.7	32.3
3年	-	-
5年	-	-
10年	-	-
設定来	3.6	39.9

※騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。  
 ※各期間は、基準日から過去に遡っています。また、設定来の騰落率については、設定当初の投資元本を基に計算しています。

## ポートフォリオ構成 (%)

株式等現物	93.8
現金等	6.2
合計	100.0
株式先物	-
株式実質組入(現物+先物)	93.8

※組入比率は、純資産総額に対する実質的な割合です。  
 ※現金等の中には未払金等が含まれるため、比率が一時的にマイナスとなる場合があります。

## 基準価額変動の要因分析(前月末比) (円)

キャピタル	371
インカム	1
為替要因	84
小計	456
信託報酬	-14
その他要因	2
分配金	0
合計	445

※要因分析は、組入有価証券の値動き等が基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その完全性、正確性を保証するものではありません。

サーキュラー・エコノミー・マザーファンドの状況

※ロンパー・オディエ社のデータを基に委託会社が作成しています。

組入上位10業種 (%)		
	業種	組入比率
1	資本財・サービス	31.5
2	情報技術	20.8
3	一般消費財・サービス	14.2
4	素材	13.1
5	生活必需品	11.7
6	公益事業	4.1
7	ヘルスケア	3.0
8	コミュニケーション・サービス	1.4
9	金融	0.3

組入上位10カ国・地域 (%)		
	国・地域	組入比率
1	米国	50.1
2	英国	9.8
3	日本	6.8
4	アイルランド	6.0
5	オランダ	4.7
6	ジャージー(チャネル諸島)	3.0
7	フランス	2.7
8	ケイマン	2.6
9	デンマーク	1.9
10	ドイツ	1.8

組入上位10通貨 (%)		
	通貨	組入比率
1	米ドル	60.9
2	ユーロ	16.6
3	英ポンド	9.8
4	日本円	6.8
5	デンマーク・クローネ	1.9
6	カナダ・ドル	1.3
7	ブラジル・リアル	1.3
8	台湾ドル	0.9
9	香港ドル	0.6

※組入比率は、組入有価証券評価額に対する割合です。

※業種は、世界産業分類基準(GICS)によるものです。

※組入比率は、組入有価証券評価額に対する割合です。

※国・地域は、原則として法人登録国または地域を表示しています。

※組入比率は、組入有価証券評価額に対する割合です。

○当ファンドでは、サーキュラーエコノミーへの移行において重要と考えられる4つの投資テーマとして「循環型バイオエコノミー」「廃棄物ゼロ」「成果志向型経済」「資源効率性」に着目し、これら4つの投資テーマに関連して収益機会を拡大することが期待される企業に投資を行います。

投資テーマ別組入比率 (%)	
投資テーマ	組入比率
循環型バイオエコノミー	31.9
廃棄物ゼロ	20.8
成果志向型経済	8.0
資源効率性	38.7

※組入比率は、組入有価証券評価額に対する割合です。

※投資テーマは、ロンパー・オディエ社による分類です。概要については、後掲の「投資テーマ」をご参照ください。

<<サーキュラー・エコノミー・マザーファンドにおけるサステナビリティ評価例>>

気候変動に関連する指標

項目	(トンCO2/投資額百万米ドル)		項目	(℃)	
	マザーファンド	(ご参考) 世界中小型株式		マザーファンド	(ご参考) 世界中小型株式
温室効果ガス排出量	604.2	778.4	気温上昇への影響	2.6	2.8

※温室効果ガス排出量は、各社が公表している情報を基に、基準日時点のサーキュラー・エコノミー・マザーファンド、世界中小型株式の構成企業全体の温室効果ガス排出量を、それぞれの企業価値(時価総額+負債-現金・現金同等物)に対する投資額の割合で按分して算出し、二酸化炭素相当量に換算した値です。

※気温上昇への影響は、世界全体が2100年まで、マザーファンド、世界中小型株式の構成企業と同様に温室効果ガスの排出を削減し続けた場合の気温上昇幅を、各社が公表している情報を基にロンパー・オディエ社が独自の方法で算出したものです。

※世界中小型株式は、MSCI ワールド・中小型株インデックスを使用しています。当ファンドのベンチマークではありません。

※ロンパー・オディエ社の判断で、予告なく項目が変更または追加になる場合があります。

組入上位10銘柄 (%) (組入銘柄数 68)

	銘柄 国・地域 業種	組入 比率	銘柄紹介
			投資テーマ サステナビリティ評価ポイント
1	ユナイテッド・ユーティリティーズ 英国 公益事業	2.8	<p>公益事業会社。イングランド北西部で個人や企業向けに上下水道サービスを提供する。規制事業であるため、5年ごとの資産計画に基づき安定したキャッシュフローを創出する。</p> <p>循環型バイオエコノミー</p> <p>同社は最先端のデジタル技術を活用し、業務の効率性と安全性において高い評価を獲得しているほか、下水処理プロセスの副産物である汚泥を処理し、バイオガスや農業用肥料を生成することで、エネルギーとしての再利用や化学肥料の使用削減、土壌の回復に貢献しています。また、2030年までに100万本の植樹を行い、炭素吸収源である泥炭地を大規模に再生することで、生物多様性の回復と水質の自然浄化に努めています。さらに隠れた漏水を発見するための監視システムを設置し、天然資源である水の無駄を削減しています。</p>
2	シスコ 米国 生活必需品	2.8	<p>食品流通会社。外食・レストランを中心に、医療施設や教育施設、宿泊施設向けに、冷凍食品、缶詰・ドライフード、生鮮食品、日用品、飲料などを世界中で提供する。</p> <p>廃棄物ゼロ</p> <p>食品・飲食業界では、健康や栄養に対する意識の高まりを受けて、代替タンパク質製品に対する需要が高まっているほか、自動走行配膳ロボットの登場により、高度な自動化への道が開かれ、新たなビジネス機会が生まれています。同社は、世界の食品システムの効率性向上において極めて重要な役割を果たしており、持続可能な農業や廃棄物の削減などの分野で前向きな変化を推進する立場にあります。2025年にかけて持続可能な農業の対象作物を当初の5種類から拡大しているほか、食品を含む廃棄物の90%を削減することを目指しています。</p>
3	栗田工業 日本 資本財・サービス	2.8	<p>水処理装置・設備の製造・販売会社。工場のボイラ・冷却設備やオフィスビルの空調設備向けの水処理薬品、目的や用途に合わせた水質まで不純物を取り除く水処理装置、メンテナンス・サービスなどを手掛ける。</p> <p>循環型バイオエコノミー</p> <p>気候変動や人口増加、都市化の進展により、2030年までに世界の淡水需要は供給量を40%上回ると予測されており、循環型水ソリューションの需要は高まっています。同社の水処理薬品事業は、取水量を削減することで淡水消費量を減らし、顧客の運用コスト削減に貢献します。また、工場のボイラや冷却設備などの水関連資産の寿命を延ばし、新規設備の必要性を低減します。さらに、同社の超純水システムは、AIやデジタル化を支える最先端半導体の製造に不可欠な基盤技術であり、エネルギー効率の向上とネイチャーポジティブの両立を可能にします。</p>
4	クラウン・ホールディングス 米国 素材	2.7	<p>容器メーカー。食品や飲料用のアルミ缶、缶口、キャップなどを世界各地で設計、製造、販売する。米国が主要市場だが、新興国市場、特に東南アジアにおいて、大きな存在感を示している。</p> <p>資源効率性</p> <p>包装材業界では、プラスチック包装をアルミニウム包装に置き換える動きが強まっています。特に欧州では、プラスチック包装におけるリサイクルプラスチックの最低含有率が導入される予定であり、転換期を迎えています。また、消費者向け製品のプラスチック代替目標を設定し、より持続可能な素材への移行を重視する企業も増えています。同社は、PET素材の代替としてアルミニウムに置き換える世界的なトレンドの恩恵を受ける優位な立場にあり、持続的な成長が見込まれています。</p>

	銘柄 国・地域 業種	組入 比率	銘柄紹介
			投資テーマ サステナビリティ評価ポイント
5	ダーリン・イングレディエンツ 米国 生活必需品	2.7	<p>食品廃棄物を再生利用する会社。レストランの廃食用油や食肉加工時の副産物を回収し、動物性タンパク質、飼料原料、肥料、そして持続可能な航空燃料(SAF)を含むバイオディーゼルに転換する。</p> <p>廃棄物ゼロ</p> <p>本来なら埋め立て処分されるはずの食品業界の副産物を、独自のネットワークで回収し、全く別の高付加価値製品へと転換しています。例えば、食肉加工の過程で残る脂肪や骨を回収し、高品質な動物用飼料、ペットフード原料、有機肥料へと再生しています。また、レストラン等から回収した使用済み油を精製し、再生可能ディーゼル燃料や航空燃料の原料にしています。同社は、世界規模の副産物や廃食用油の回収ネットワークを有するほか、高付加価値製品に転換する高い精製能力を有しています。</p>
6	アジレント・テクノロジー 米国 ヘルスケア	2.6	<p>電子計測機器メーカー。ライフサイエンス、診断、応用化学市場などで事業を展開しており、世界中のラボ向けに、装置、サービス、消耗品、アプリケーション、ソリューションを提供している。</p> <p>廃棄物ゼロ</p> <p>環境試験は汚染物質や生態系の汚染状況を管理する上で必要不可欠です。同社は、農業から医薬品残留物、微量金属まで、世界中の食品に含まれる化学物質、ウイルス、細菌、微生物など、化学物質やその他の物質を測定するためのソリューションを提供しています。顧客には、食品の安全性を管理する政府機関や研究所、食品を製造、包装、販売する民間企業などが含まれます。食品の安全性管理だけでなく、空気や水、土壌の質の向上、正確な診断と標的治療によるがん撲滅など、人々の生活の質向上に努めています。</p>
7	アドバンスト・ドレナージ・システムズ 米国 資本財・サービス	2.6	<p>排水管メーカー。米国全土で高性能熱可塑性コルゲートパイプ(加熱することで容易に変形することができる、リサイクルに適した素材の排水管)を製造および販売するほか、建設物、インフラ、農地で使用するための水管理製品および排水ソリューションを提供する。</p> <p>循環型バイオエコノミー</p> <p>都市部で発生した豪雨は、近くの河川や湖、沿岸地域を汚染する可能性があるため、大きな問題となっており、世界中で汚水と雨水を分けて流すための仕組みの導入が急がれています。こうしたなか、従来製品に比べてコストが安く、設置速度の速い同社製品のニーズは高まることが予想されます。また、同社は大規模なリサイクル施設を保有しており、同社製品には現在年間5億英ポンド相当のリサイクル素材が使用されていますが、これを2032年までに倍増させることを目指しています。</p>

	銘柄 国・地域 業種	組入 比率	銘柄紹介
			投資テーマ サステナビリティ評価ポイント
8	アシュテッド・グループ 英国 資本財・サービス	2.6	<p>国際的な機器レンタル会社。米国、カナダ、英国に強力な国内ネットワークを持ち、多様な用途に対応し、幅広い顧客層に建設機械および産業機械のレンタルを行っている。</p> <p><b>成果志向型経済</b></p> <p>機器を「買う」から「借りる」時代へと変わる中で、同社は配送や管理の効率化によって機器が使えない時間を減らし、必要な時に最適な機器をすぐ届けられる体制を築いています。デジタル化が進み、スマホやPCから手軽にレンタルでき、機器のメンテナンス品質も大きく向上しました。業界トップの規模と高い利益率を強みに、この構造変化をリードしているのが同社です。機器をシェアすることで稼働率を上げながらCO2も減らせる、脱炭素社会にもフィットするビジネスモデルと言えます。</p>
9	スマーフィット・ウエストロック アイルランド 素材	2.5	<p>紙製包装材メーカー。世界各地で容器用板紙、段ボール、およびその他紙製包装材を提供する。スマーフィット・カップ・グループとウェストロックの統合により誕生。</p> <p><b>循環型バイオエコノミー</b></p> <p>包装材業界では、eコマース市場の急拡大により、紙や段ボール包装に対する需要が高まっています。また、欧州では2030年までにプラスチック包装の再生材料の含有率を一定以上にすることが義務付けられるなど転換点を迎えており、プラスチックを紙などの代替材料に置き換える動きが一段と強まる可能性があります。同社は、競合他社の買収により、世界的なプレゼンスを高めています。また、リサイクル紙や板紙から回収した繊維は年間800万トン製紙や包装材に再利用されるほか、繊維のおよそ75%はこうしたリサイクル資源を活用しています。</p>
10	コンパス・グループ 英国 一般消費財・サービス	2.3	<p>ケータリング会社。世界各地で、オフィスや工場、病院、介護施設、学校、軍事施設などにおいてケータリングやサポートサービスを手掛ける。</p> <p><b>廃棄物ゼロ</b></p> <p>フードサービス事業では、食品廃棄物の削減、責任ある食材の調達、持続可能な食事、包装廃棄物の最小化、リサイクルの促進が優先課題となっています。同社はこうした課題を解決するための豊富な知見を有し、規模の経済性を活かして持続可能なソリューションや幅広いサービスを提供しています。2030年までに食品廃棄物を半減することを目標とし、これまで世界28か国で約3割の削減を達成しています。家畜がCO2排出の主な要因であることを認識し、2030年までにたんぱく質の40%を動物性から植物性に移行することも目指しています。</p>

※組入比率は、組入有価証券評価額に対する割合です。

※国・地域は、原則として法人登録国または地域を表示しています。

※業種は、世界産業分類基準(GICS)によるものです。

※サステナビリティ評価ポイントは、ロンバー・オディエ社が独自にサステナビリティの観点により企業を評価したものです。

※当該個別銘柄の揭示は、銘柄推奨を目的としたものではありません。

## マーケット動向とファンドの動き

2月のグローバル中小型株式市場は上昇しました。上旬は、AIが既存のソフトウェア・サービスを代替するとの懸念から関連銘柄を中心に軟調に推移する場面がみられました。しかし、大手ハイテク企業による巨額の設備投資を受けて、投資家心理が改善すると反発しました。中旬は、AIが様々な企業のビジネスモデルにとって脅威になるとの見方やイラン情勢の緊迫化が相場の重しとなったものの、企業の好決算や米連邦最高裁によるトランプ政権の相互関税に対する違憲判決などが好感され、小動きとなりました。下旬は、AI開発新興企業のアンソロピックがAIと既存のソフトウェアを連携させる機能を発表したことを受けてAIを巡る懸念が和らぎ、上昇しました。セクター別では、エネルギーや公益、生活必需品セクターの上昇が目立ちました。2月末の米ドルの対円レートは前月末比上昇しました。こうしたなか、当ファンドの基準価額は前月末比上昇しました。個別銘柄では、2026年のバイオ燃料価格に対する楽観的な見方が根強い食品廃棄物の再生利用に従事するダーリン・イングレディエンツや、半導体需要の高まりが好感された半導体関連機器メーカーのウルトラ・クリーン・ホールディングスの株価が大きく上昇しました。

## 今後のマーケット見通しと今後の運用方針

トランプ政権の政策に対する不透明感や既存業務がAIにより代替されるとの懸念などが相場の重しとなる一方で、FRB(米連邦準備理事会)による利下げや堅調な企業業績が株式市場を下支えするとみえています。また、世界経済の底堅さにより、2025年に比べてより広範なセクター及び銘柄に物色の動きが広がると考えています。そのなかでも、当ファンドの主要投資対象である中小型株は相対的な出遅れ感もあって、市場の注目を集めると考えています。当ファンドではサーキュラーエコノミーへの移行によって恩恵を受ける、高クオリティ且つ、企業固有の要因によって高い成長が見込まれる企業に投資を行う方針です。また、循環型バイオエコノミーや廃棄物ゼロ、成果志向型経済、資源効率性の4つの投資テーマに着目しており、その中でも高性能なバイオ素材や先端の製造業、廃棄物のリサイクルや水管理、環境保全など持続可能な世界に貢献するインフラ事業などを選好しています。経済や規制環境の変化によって、こうした分野において新たなビジネスモデルが創出されています。

※マーケット動向とファンドの動きは、過去の実績であり将来の運用成果等をお約束するものではありません。また、見通しと運用方針は、作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

※当資料中の各数値については、表示桁未満の数値がある場合、原則、四捨五入して表示しています。

※当資料中の各数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。

「投資信託に関する留意点」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。

## ファンドの特色

信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。

1. 主として、世界(わが国および新興国を含みます。)の企業の中から、サーキュラーエコノミー(循環経済)\*<sup>1</sup>の実現に寄与する事業に取り組み、成長が期待される企業の株式\*<sup>2</sup>に実質的に投資を行います。

\*1 サーキュラーエコノミーとは、資源を循環的に利用しつつ付加価値を生み出すことを目指す、循環型の社会経済システムです。

\*2 DR(預託証券)もしくは株式と同等の投資効果が得られる権利を表示する証券および証書等を含みます。

● サーキュラー・エコノミー・マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)への投資を通じて、世界の金融商品取引所(わが国および新興国を含みます。)に上場する株式(上場予定を含みます。)に実質的に投資を行います。なお、マザーファンドの組入比率は、原則として高位を維持します。

● 株式の実質組入比率は、原則として高位を維持します。

● 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。このため、基準価額は為替変動の影響を受けます。

2. 社会環境の変化に関するリサーチと、独自のフレームワークを用いた各銘柄の評価を基に、サーキュラーエコノミーの実現に寄与する事業に取り組み、成長が期待される銘柄を厳選して投資を行います。

● 社会環境の変化に関するリサーチによって、今後拡大することが期待される収益機会を特定します。

● ロンバー・オディエ社\*<sup>1</sup>独自のフレームワークによって、環境や社会、ガバナンスの観点で望ましくないと考えられる企業を投資対象から除外し、サステナビリティの観点による企業の評価を実施します。

● 社会環境の変化への対応、ビジネスモデル、バリュエーション(株価指標)、資本効率などの観点から優れていると判断される銘柄を厳選して投資を行います。

● マザーファンドの純資産額のうち、ESG\*<sup>2</sup>を主要な要素として選定する銘柄への投資額(時価ベース)の比率について70%以上を目標とします。

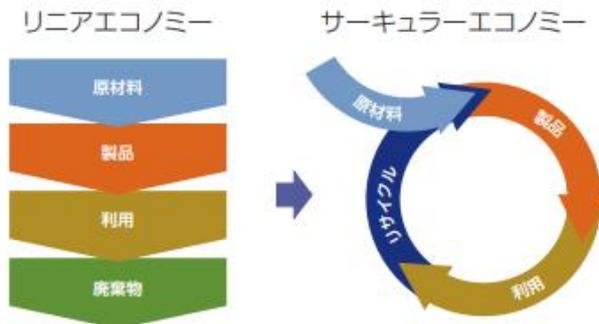
\*1 ロンバー・オディエ社とは、ロンバー・オディエ・グループの資産運用部門に属する企業の総称です。

\*2 「ESG」とは、環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)の略称です。

ファンドの特色

サーキュラーエコノミー(循環経済)とは

- ◆サーキュラーエコノミーとは、大量生産・大量消費を伴う一方通行型の経済社会システム(リニアエコノミー)から脱却し、社会全体で資源の投入量や消費量を抑え、資源を循環的に利用しつつ付加価値を生み出すことを目指す、循環型の経済社会システムです。
- ◆大量生産・大量消費を伴う経済社会システムは、気候変動問題や天然資源の枯渇、生物多様性の破壊など様々な環境問題の要因となっています。資源・エネルギーや食糧の需要増大、廃棄物発生量の増加が世界全体で深刻化する中で、限りある資源を持続可能な形で効率的に利用する「サーキュラーエコノミー」への移行を目指すことが求められます。



サーキュラーエコノミーの3原則

- ◆廃棄物や汚染を生み出さない
- ◆製品と素材を(高い価値の状態のまま)循環させる
- ◆自然を再生させる

(出所) 環境省、エレン・マッカーサー財団等の情報を基に委託会社作成

投資テーマ

- ◆当ファンドではサーキュラーエコノミーへの移行において重要と考えられる4つの投資テーマとして「循環型バイオエコノミー」「廃棄物ゼロ」「成果志向型経済」「資源効率性」に着目します。
- ◆これら4つの投資テーマに関連して収益機会を拡大することが期待される企業に投資を行います。



循環型バイオエコノミー

バイオテクノロジーやバイオマテリアルなど、生物資源を活用することによって環境負荷を低減することを目指す。  
製品やサービス: 分解性のバイオプラスチック、紙およびパルプボードの包装材料 など



廃棄物ゼロ

リサイクルの推進や食品ロスの削減などによって、可能な限り廃棄物を出さないことを目指す。  
製品やサービス: 廃棄物の少ない包装資材、廃棄物処理インフラサービス など



成果志向型経済

モノの製造や販売を重視する経済から、製品がもたらす利用価値や成果を重視する経済への転換を目指す。  
製品やサービス: シェアリング・サービス、耐久性のある商品、商品の修理サービス など



資源効率性

経済活動における資源の消費を抑制することで、資源の採集や使用、廃棄物処理に伴う環境への悪影響の低減を目指す。  
製品やサービス: 製品デザイン向けソフトウェア、リサイクル率の高い金属素材 など

※上記の投資テーマや関連する製品・サービスは 2025 年 11 月末時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

(出所) ロンパー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

ファンドの特色

3. マザーファンドの運用にあたっては、ロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(ヨーロッパ)リミテッド\*1 に運用指図に関する権限の一部(株式等の運用の指図に関する権限)を委託します。

- ロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(ヨーロッパ)リミテッドは、その委託を受けた運用の指図に関する権限の一部を、ロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(スイス)エス・エー\*2 およびロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(USA)コープ\*3 に再委託します。

\*1 ロンバー・オディエ社の英国拠点です。

\*2 ロンバー・オディエ社のスイス拠点です。

\*3 ロンバー・オディエ社の米国拠点です。

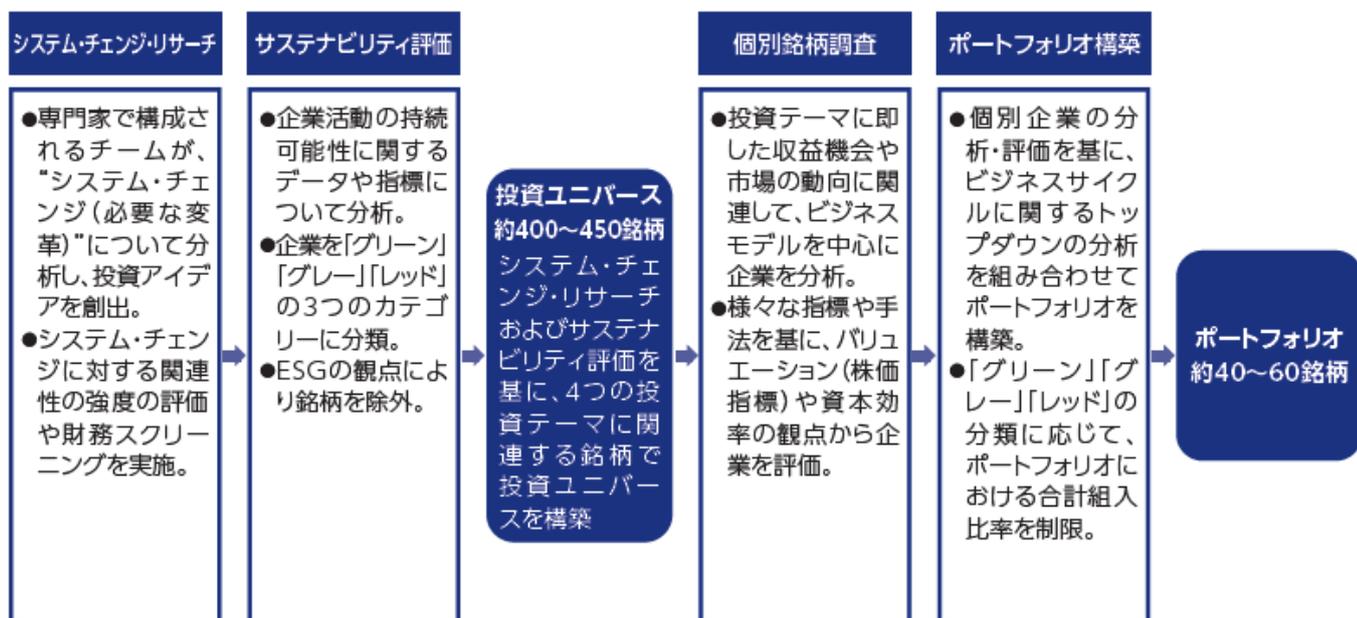
ロンバー・オディエ・グループについて

- ロンバー・オディエ・グループは欧州最大級のプライベートバンクです。
- ロンバー・オディエ・グループは 1796 年の創立以来、200 年以上にわたって富裕層や機関投資家に資産運用サービスを提供しています。
- ロンバー・オディエ・グループの資産運用部門はヨーロッパ、アジア、北米に複数拠点を有し、グローバルな運用体制を構築しています。
- ESG 投資においては長期にわたって独自の取り組みを実践しています。

※ロンバー・オディエ社とは、ロンバー・オディエ・グループの資産運用部門に属する企業の総称です。

(出所)ロンバー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

運用プロセス



※上記はマザーファンドの運用プロセスです。

※運用プロセスは、2025年11月末時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

(出所)ロンバー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

ファンドの特色

システム・チェンジ・リサーチ

- ◆ロンパー・オディエ社では、環境科学や政策、経済学などの専門家によるリサーチチームが、長期的な社会環境の変化に関するリサーチを行います。
- ◆幅広いテーマに関連したリサーチを基に、テクノロジーや政策、ビジネスモデルなどに関する分析を行い、投資アイデアを創出します。

代表的なリサーチ内容



※リサーチ内容は上記に限定されません。

※上記のシステム・チェンジ・リサーチは、マザーファンドについての内容です。

※上記のリサーチ内容は 2025 年 11 月末時点での情報であり、今後予告なく変更される場合があります。

(出所)ロンパー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

サステナビリティ評価

- ◆個別の企業に対してサステナビリティの観点から分析・評価を行い、各銘柄を「グリーン」「グレー」「レッド」に分類します。
- ◆マザーファンドにおける「グリーン」銘柄の合計組入比率は 70%以上とします。なお、「レッド」銘柄の合計組入比率は参考指数(MSCIワールド・中小型株インデックス)における「レッド」相当銘柄の構成比率の 50%以下とします。
- ※「レッド」銘柄は、投資テーマに関連して重要な役割を果たしているとロンパー・オディエ社の会議体で承認した場合のみ、投資ユニバースへの選定およびポートフォリオへの組み入れが行われます。
- ◆環境や社会、ガバナンスの観点で望ましくないと考えられる企業を除外します。

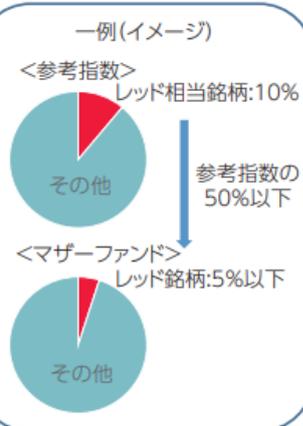
ESGの観点による除外

- 次のような環境や社会、ガバナンスの観点で望ましくないと考えられる企業には投資を行いません。
- ◆非人道的兵器を製造、取引、保管する企業
  - ◆たばこ、石炭採掘、石炭火力発電、非在来型石油・ガスに関連する収益寄与が一定のしきい値を超える企業
  - ◆人権、労働、環境、腐敗防止の観点で懸念のある企業

サステナビリティ評価に基づき企業を分類

- ◆独自のフレームワークによって企業を評価し、「グリーン」「グレー」「レッド」に分類します。
- ◆対象となる企業について、「持続可能な事業の業績への寄与度」「環境や社会に与える悪影響」「適正なガバナンス」の3つの観点を「サステナブル」「中立」「課題あり」の3段階で評価し、最終的な分類を決定します。

分類	対象企業	合計組入比率
グリーン	3つの観点すべてで「サステナブル」と評価する企業	70%以上
グレー	「中立」と評価する観点があるものの、「課題あり」と評価する観点がない企業	ルールなし
レッド	3つの観点のうち、「課題あり」と評価する観点が1つでもある企業	参考指数における「レッド」相当銘柄の構成比率の50%以下



※MSCIワールド・中小型株インデックスは世界の先進国の中型および小型の株式で構成される指数です。

※MSCIワールド・中小型株インデックスは当ファンドのベンチマークではありません。

※上記のサステナビリティ評価は、マザーファンドについての内容です。

※上記は 2025 年 11 月末時点での情報であり、今後予告なく変更される場合があります。

(出所)ロンパー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

## ファンドの特色

## ロンパー・オディエ社のスチュワードシップに関する声明

責任ある投資家として持続可能な企業を実現するために、企業と対話し、議決権を行使する義務があります。スチュワードシップ活動を通じて、次の主要な目標を達成することを目指します。

- ・持続可能な社会への移行に寄与する取り組みを促進します。企業に対するサステナビリティ評価の結果を踏まえてスチュワードシップ活動に取り組むことで、企業の持続可能な社会への移行に関するより高い目標設定と信頼性の向上、開示および実践の改善を促進し、議論に取り組む中で役割を果たします。
- ・持続可能性に関する一連のリサーチを活用し、スチュワードシップ活動を通じて、企業の持続可能な収益源への移行について支援、推進することを目指します。

私たちは、投資チームやリサーチチームと一体となって、アセットクラスを横断した企業との対話と議決権の行使を通じて、スチュワードシップの責任を果たします。私たちは、持続可能な社会への移行に寄与する取り組みと持続可能なリターンを促進するために、企業と対話し議決権を行使します。この対話を通じて企業の持続可能性に対する理解を高め、さらに投資に関する分析に反映します。

※上記は 2025 年 11 月末時点での情報であり、今後予告なく変更される場合があります。

※上記はロンパー・オディエ社の情報を基に委託会社が作成したものであり、ロンパー・オディエ社が開示する原文(英文)と齟齬がある場合には原文が優先されます。

## (分配方針)

年1回の決算時(毎年5月 10 日(休業日の場合は翌営業日))に、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を対象として、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。

分配金が支払われない場合もあります。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

## 主な投資リスク

当ファンドは、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

また、投資信託は預貯金と異なります。

なお、基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。

### ● 株価変動リスク

株式の価格は、国内外の政治・経済・社会情勢の変化、発行企業の業績・経営状況の変化、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式市場や当ファンドが実質的に投資する企業の株価が下落した場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。また、当ファンドは実質的に企業のESGへの取組みを考慮した投資を行うことから、投資対象が株式市場全体と比べて特定の銘柄や業種に偏ることがあり、このため基準価額の変動が株式市場全体の動向から乖離することや、株式市場が上昇する場合でも基準価額が下落する場合があります。

### ● 為替変動リスク

為替相場は、各国の政治情勢、経済状況等の様々な要因により変動し、外貨建資産の円換算価格に影響をおよぼします。当ファンドは、実質組入外貨建資産について原則として為替ヘッジを行わないため為替変動の影響を受けます。このため為替相場が当該実質組入資産の通貨に対して円高になった場合には、実質保有外貨建資産が現地通貨ベースで値上がりした場合でも基準価額が下落する可能性があります。

### ● 流動性リスク

有価証券等を売却または取得する際に市場規模や取引量、取引規制等により、その取引価格が影響を受ける場合があります。一般に市場規模が小さい場合や取引量が少ない場合には、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないことや、値動きが大きくなる場合があります。基準価額に影響をおよぼす要因となります。

### ● 信用リスク

有価証券等の価格は、その発行者に債務不履行等が発生または予想される場合には、その影響を受け変動します。当ファンドが実質的に投資する株式の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、また、こうした状況に陥ると予想される場合、信用格付けが格下げされた場合等には、株式の価格が下落したり、その価値がなくなることがあり、基準価額が下落する要因となります。

### ● カントリーリスク

投資対象国・地域の政治経済情勢、通貨規制、資本規制、税制、また、取引規制等の要因によって資産価格や通貨価値が大きく変動する場合があります。海外に投資する場合には、これらの影響を受け、基準価額が下落する要因となる場合があります。当ファンドは実質的に新興国の株式にも投資を行う場合があります。新興国の経済状況は、先進国経済と比較して一般的に脆弱である可能性があります。そのため、当該国のインフレ、国際収支、外貨準備高等の悪化等が株式市場や為替市場におよぼす影響は、先進国以上に大きいものになることが予想されます。さらに、政府当局による海外からの投資規制や課徴的な税制、海外への送金規制等の種々の規制の導入や政策の変更等の要因も株式市場や為替市場に著しい影響をおよぼす可能性があります。

### ● ESG情報・評価に関連する制約

当ファンドで勘案するESG情報は、委託会社および運用外部委託先が独自調査で入手した情報だけでなく、第三者のESG情報ベンダーによる情報や評価が含まれている場合があります。これらのESG情報は、企業開示や企業アンケート、取材等により入手・収集されますが、ESG情報ベンダーからの提供情報は、当該情報ベンダーの情報収集力により情報量が制限されることがあります。また、企業によって開示された情報やメディアによって報道される情報は、タイムリーに評価結果に反映されないことがあります。また、委託会社および情報ベンダーによる評価基準の変更により、過去からの情報継続性が失われることがあります。

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位(当初元本1口=1円)	信託期間	2045年5月10日まで(2024年4月30日設定)
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額(基準価額は1万口当たりで表示しています。)	繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することがあります。 ・信託契約を解約することが受益者のために有利であると認める場合 ・純資産総額が30億円を下回ることとなった場合 ・やむを得ない事情が発生した場合
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。		
換金単位	販売会社が定める単位	決算日	毎年5月10日(休業日の場合は翌営業日)
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額	収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 ※お申込コースには、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」があります。 ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。		
申込締切時間	原則として営業日の午後3時30分までに販売会社が受付けたものを当日分のお申込みとします。なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。	課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※税法が改正された場合等には、上記内容が変更となることがあります。
購入・換金申込不可日	以下のいずれかに該当する日には、購入・換金のお申込みの受付を行いません。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ロンドン証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行の休業日 ・ロンドンの銀行の休業日		
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。		
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。		

ファンドの費用

以下の手数料等の合計額、その上限額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。  
 ※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となる場合があります。

● 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、 <b>3.3%(税抜3.0%)</b> を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額となります。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に <b>0.3%</b> の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。

● 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	<p>ファンドの日々の純資産総額に対して <b>年率 1.738%(税抜1.58%)</b></p> <p>※信託報酬には、サーキュラー・エコノミー・マザーファンドの株式等の運用の指図に関する権限の委託を受けた投資顧問会社(ロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(ヨーロッパ)リミテッド)に対する報酬(当ファンドの信託財産に属する当該マザーファンドの純資産総額に対して年率0.6%)が含まれます。なお、当該投資顧問会社に対する報酬には、ロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(スイス)エス・エーおよびロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(USA)コープに対する報酬が含まれます。</p>
その他の費用・ 手数料	<p>その他の費用・手数料として、お客様の保有期間中、以下の費用等を信託財産からご負担いただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料</li> <li>・信託事務の処理に要する諸費用</li> <li>・外国での資産の保管等に要する費用</li> <li>・監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 等</li> </ul> <p>※これらの費用等は、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率・上限額等を示すことができません。</p>

## 投資信託に関する留意点

投資信託は、

- 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
- 購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

## 当資料のお取扱いについてのご注意

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料です。
- お申込みに際しては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益は全て投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

### ◆収益分配金に関する留意事項◆

- 収益分配は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。))を超えて行われる場合があります。したがって、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本の状況によっては、分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。個別元本とは、追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本のことです。受益者毎に異なります。
- 分配金は純資産総額から支払われます。このため、分配金支払い後の純資産総額は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に分配金の支払いを行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することとなります。

## 委託会社およびファンドの関係法人

<委託会社>アセットマネジメントOne株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号  
 加入協会:一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会

<受託会社>みずほ信託銀行株式会社

<販売会社>販売会社一覧をご覧ください。

## 委託会社の照会先

アセットマネジメントOne株式会社  
 コールセンター 0120-104-694  
 (受付時間:営業日の午前9時~午後5時)  
 ホームページ URL <https://www.am-one.co.jp/>

販売会社一覧

○印は協会への加入を意味します。

2026年3月18日現在

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考
株式会社みずほ銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第6号	○		○	○	
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号	○	○	○	○	

●他にもお取扱いを行っている販売会社がある場合があります。

また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

●販売会社によってお申込みの条件、制限等が異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

<備考欄について>

※1 新規募集の取扱いおよび販売業務を行っておりません。

※2 備考欄に記載されている日付からのお取扱いとなりますのでご注意ください。

※3 備考欄に記載されている日付からお取扱いを行いませんのでご注意ください。

(原則、金融機関コード順)

## 指数の著作権などについて

MSCI ワールド・中小型株インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

世界産業分類基準(GICS)は、MSCI Inc.(MSCI)およびStandard & Poor's Financial Services LLC(S&P)により開発された、MSCIおよびS&Pの独占的権利およびサービスマークであり、アセットマネジメントOne株式会社に対し、その使用が許諾されたものです。MSCI、S&P、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者のいずれも、かかる基準および分類(並びにこれらの使用から得られる結果)に関し、明示黙示を問わず、一切の表明保証をなさず、これらの当事者は、かかる基準および分類に関し、その新規性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性についての一切の保証を、ここに明示的に排除します。上記のいずれをも制限することなく、MSCI、S&P、それらの関係会社、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者は、いかなる場合においても、直接、間接、特別、懲罰的、派生的損害その他一切の損害(逸失利益を含みます。)につき、かかる損害の可能性を通知されていた場合であっても、一切の責任を負うものではありません。